

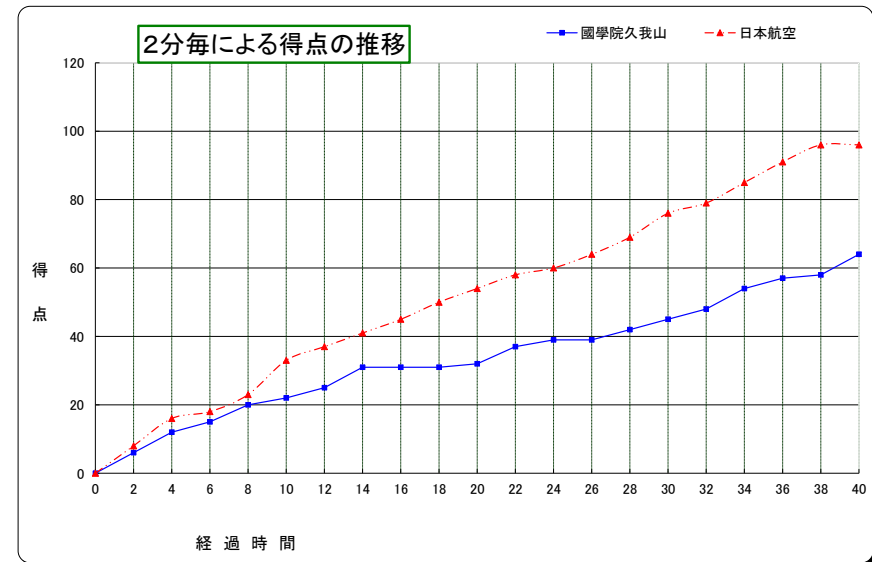
令和5年度 第34回関東高等学校 バスケットボール新人大会

令和6年2月4日(日)
深谷ビッグタートル
決勝

チームA				チームB
國學院久我山 (東京)	64	{ 22 1st 33 10 2nd 21 13 3rd 22 19 4th 20 }	96	日本航空 (山梨)

番号	氏名	得点	3P		2P		FT		反則	リバウンド		スチール	アシスト	ブロック ショット	ターンオーバー
			成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF				
4	村田 桂次郎	19	4	15	2	3	3	7	3	0	6	1	7	0	3
5	澤木 優	11	3	13	1	2	0	0	1	0	2	0	3	0	1
6	奥本 航大	0													
7	安藤 空	0	0	3	0	2	0	0	0	0	2	0	0	0	1
8	藤田 廉	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0
9	鈴木 煌汰	16	4	14	2	3	0	0	0	5	3	1	2	0	0
10	川村 歩	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11	佐藤 淳太郎	15	5	15	0	1	0	2	1	0	2	0	0	0	0
12	石水 怜	3	1	3	0	2	0	0	1	3	1	2	2	1	3
13	北澤 大輝	0													
14	鈴木 成連	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
15	孫 紹峰	0													
16	渡邊 大斗	0													
17	小山 瑠海斗	0													
18	張 宇森	0													
コーチ	酒 井 良 幸														
		64	17	63	5	14	3	9	7	8	17	4	14	1	9
		確率	27.0%		35.7%		33.3%			計	25				

番号	氏名	得点	3P		2P		FT		反則	リバウンド		スチール	アシスト	ブロック ショット	ターンオーバー
			成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF				
0	西田 壮良	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
8	菅野 幸世	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11	宮野 大知	5	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12	萩原 迅	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
21	平林 凌大	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
22	望月 陽生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
23	オルワベルミ ジェラマイア	27	0	1	12	14	3	3	0	4	16	0	3	0	3
25	鈴木 蓮	2	0	1	1	1	0	0	0	0	4	0	4	0	0
30	大道 一步	24	3	7	7	13	1	2	2	1	6	4	10	0	4
31	本郷 匠ノ奏	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
34	久保田 楓羽	0	0	1	0	2	0	0	0	0	1	0	1	0	3
58	中西 哲太	10	2	5	2	2	0	0	1	0	6	0	2	0	0
77	高橋 蓮夢	3	1	8	0	1	0	0	1	2	0	0	0	0	4
78	齊藤 翔大	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
99	三村 デール アンソニー	25	0	0	12	14	1	1	0	4	9	0	1	1	2
コーチ	山 本 裕														
		96	7	25	35	49	5	6	6	12	44	4	21	1	17
		確率	28.0%		71.4%		83.3%			計	56				



戦評

東京都代表国学院久我山と、山梨県代表日本航空とのお互い初優勝をかけての一戦である。

第1Q、久我山2-3ゾーン、日本航空もまた2-3ゾーンでゲームをスタートする。先手を取ったのは日本航空。#23のバスケットカウントから#58の3P、#30のインターセプトからレイアップを決めリズムを作る。開始1分で久我山はたまたまタイムアウト。久我山は、徹底した3P攻勢で#4、#5、#11で5連続で決め、食らいつく。日本航空#23、#99のインサイドの得点と#30、#58の3Pと内外バランスよく得点する。対照的に久我山は外から徹底してシュートを狙う。

第2Q、日本航空#30のドライブインシュート、#99のインサイドプレイで得点し、リードを広げていく。久我山は#11、#9の3Pで得点するが、確率が上がらず、点差を縮めることができない。日本航空は、ゾーンアタックをしかけてインサイドの#99のシュートで確実に得点し、リードを広げる。さらに日本航空は#30のインターセプトからレイアップを決め、流れは完全に日本航空となり前半を終了する。

第3Q、両チーム共に2-3ゾーンディフェンスで後半をスタートする。点差を縮めたい久我山は前半に引き続き徹底して3Pを狙う。#9が3P、ジャンプシュートを決める。その後も思い切りよく3Pを打つが確率が上がらない。日本航空は#23、#99のインサイドにボールを入れて得点し、#30が3Pを決め、主導権を渡さない。

第4Q、久我山は何か試合の流れを変えたいところである。久我山#12、#4が3Pを決めて食らいつく。しかし疲れが見え、シュートの確率が上がらない。日本航空はディフェンスリバウンドを確実に取り、攻撃につなげ、#11のジャンプシュート、3P、#58の速攻からのレイアップシュートと確実に得点し、試合の流れは変わらない。久我山は最後まで粘りを見せるが、試合の流れは変えるまでには至らなかった。終始試合は日本航空ペースで終了し、日本航空が初優勝を飾った。

文責 枯木 毅

Ref	東 祐二	1st U	眞 榮喜 工	2nd U	小 澤 朋 克
-----	------	-------	--------	-------	---------